The University of Osaka
Institutional Knowledge Archive

Title	デンマーク語の授業におけるCALL教室の利用
Author(s)	大辺, 理恵
Citation	サイバーメディア・フォーラム. 2020, 20, p. 31-32
Version Type	VoR
URL	https://doi.org/10.18910/77283
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

https://ir.library.osaka-u.ac.jp/

The University of Osaka

デンマーク語の授業におけるCALL教室の利用

大辺 理恵（大阪大学 大学院言語文化研究科）

1. はじめに

言語文化研究科言語社会専攻の大辺理恵と申します。この大学院そして外国語学部においてデンマーク語の語学の授業を担当しております。外国語学部は1年生の授業のみ豊中キャンパスで行なっており、この週2回のデンマーク語の授業の際にサイバーメディアセンター棟のCALL教室を使用しております。今回は、私がデンマーク語の授業でCALL教室を使用している理由などについて、簡単に述べたいと思います。

2. CALL教室利用について

私がCALL教室を使い始めたのは、まだ非常勤講師としてデンマーク語を教えていた頃でした。CALL教室の利用を希望した理由は多々ありますが、いくつかをここに列挙しますと、

① 各学生のペースに合わせてリスニング問題に取り組め、自由に何度も音声の確認ができる
② センターモニターを黒板またはスクリーン代わりに利用できる
③ CLEやロイロノートの利用と連動させやすい
④ 学生がその場で調べ、話し合い、その結果をアウトプットすることができる

などが挙げられます。

まず①について述べますと、通常教室でリスニング問題を実施すると、必ず何度問題を聞きたいか、そしてどこを集中的に聞きたいかという点に個人差が現れます。しかしCALL教室では、各々が聞きたい回数だけ、聞きたい箇所を自由に聞くことが可能になります。リスニングは外国語教育における重要な分野であると同時に、得手不得手が出やすい分野でもあります。特に不得意な学生にとっては、自分が聞けない箇所を、何度でも自分のペースで聞くことができる環境というのは、語学学習にとって非常に有益であると思われます。

次に②についてですが、私は自身の授業においてKeynoteあるいはPowerPointを使用することが多く、通常教室の場合は、教室によってはスライド表示の可能なモニターが小さすぎるため、授業の進行に支障が出ることがあります。この点、CALL教室ではセンターモニターが学生の目の前に設置されているため、学生は説明をセンターモニターで確認しながら、自分のモニターで自分自身のノートを取るということが可能になっています。昨今では語学の授業でも、Webページ、インターネット上の動画、DVDなど多くの視聴覚教材を使用しますが、CALL教室ではこれらも学生に非常に近い距離で見せることが可能です。また実際の書籍などについても、CALL教室に備え付けの書画カメラを使って、学生に見せることができる点も非常に便利です。

そして③についてですが、これは②で述べたことと重複する点もありますが、私の授業では課題などはほぼ全てCLE上で配布・提出を行なっています。CALL教室では提出・採点済みの課題について、各々がその場で確認し、それをもとに全体で間違いの多かった部分などについて確認するということも可能です。また2019年度からは、毎回の小テストにおいても、CLEのテスト機能を使用し、CALL教室で小テストを行なっています。そして授業プリントについては、ロイロノートを使用して学生に配布しています。学生は各端末でロイロノートを使用し、予め配布されている授業ノートに各々のメモを書き込み、授業の最後にはそれをその日のノートとして保存することが可能になっています。（学生たちは、CLEには阪大HPから、またロイロノートには携帯用アプリからいつでもどこでもアクセスが可能なため、移動中などにも確認することが可能です。）

最後に④についてですが、これは主に外国語学部の3・4年生向けに開講しているデンマーク語の原書講読の授業でのことです。この授業では、各々が

予習としてデンマーク語のテキストを日本語に訳してきます。その訳の確認については、教員が 1 人の学生を指名して日本語訳を言わせるというスタイルで授業を進める場合もありますが、最近では学生を 3〜4 名の少数グループに分けて、まずは自分たちの訳を照らし合わせ日本語訳について再考することを促しています。その際には、インターネット上で無料公開されているデンマーク語―デンマーク語辞書の使用も促しています。最終的には、グループごとに 1 つの端末を使って自分たちの訳を PowerPoint などにまとめ、CaLabo のファイル提出機能を使って教員まで提出させます。そのあとで、クラス全体でテキストの日本語訳について確認をしていきます。このようなグループワークは、通常教室では実現するのが難しかったであろうと思います。

3. おわりに

以上に述べましたように、CALL 教室を利用することによる利点は数多くあるように思います。また、サイバーメディアセンターにおいて、CALL 教室を利用している先生と意見交換をすることにより、私自身が知らなかった使い方などを知ることができ、おかげで授業の進め方などについてもとても有益な情報を手にすることができています。今後も CALL 教室の利用について、色々と学んでいくことができればと思っています。